

牧師所感： 送る歳 2024 年を回顧する

送る歳 2024 年は 筆者の生涯を顧みる時、今までのどの歳よりも、幸せな日々を送つたという感謝である。

今年 91 歳を生きるにあって、過ぎ去った幸せな年がなかったという意味では決してない。ではなく、過ぎ去った日々は、また生きる力に余力があって、思うままに行動が出来たということである。

だが今年に入って、急速に力が衰え、正常な活動が出来なくなった。病院に 15 日間もお世話になった。車の運転すらも出来なくなる程、周囲が心配してくれるようになつた。つまり死が目前に迫っていることを周囲が心配してくれるようになった。でも、

日々を今より誠実に生きて、神の思召しに答える一念は変わることはない。老体にむちう鞭打って毎週講壇で御言葉を、宣べ伝えることが出来るのを、この上ない祝福と心得ている。

以上の告白は私個人の告白である。

さて、次は教会の信徒の教会生活である。過ぐる一年、誰も病気せず、忠実に礼拝（52 週）を守り、神に仕えて来られたことを感謝する。

特に、ロシアとウクライナの戦争、イスラエルとハマスの戦争で、犠牲になった民間人の人々を悼み、戦争終結の為に祈って来たことに牧師として感謝に耐えない。

特に対外の要請に従って一年中（特にクリスマス）、特別献金を捧げて救済に答えることが出来て感謝である。

なお、世界情勢に目を配る時、今までとは違つて、アメリカを始め、世界が自国主義に舵を切り始めていることに憂慮する。これからの中はどうなつて行くのだろう？おわりに日本国は民主主義の国として、世界に貢献する国となつて行きますようにと祈る。と共に、祖国韓国が平和を取り戻す国となりますように祈ります。

聖書 エフェソの信徒への手紙 2:14

「實に、キリストはわたしたちの平和であります。」！！